

令和3年度岡山県立林野高等学校学校評価書

校長 安東 幸信

1 学校自己評価について

(1) 評価結果

別紙「令和3年度 岡山県立林野高等学校具体的な学校経営目標・計画」参照

2 学校関係者評価について

(1) 学校運営協議会委員名

新田 義純 (美作市立江見小学校 校長)	甲本 智之 (美作市教育委員会 学校教育課長)
松本 勝巳 (美作市立美作中学校 校長)	丸山 健一 (美作市市役所 企画振興部 営業課長)
小林 朋道 (鳥取環境大学環境学部 学部長)	上原 正之 (元岡山県立津山東高等学校校長)
白沢 健二 (白沢プランニング 代表取締役)	新免 智子 (大原中学校 PTA母親の会代表)
早瀬 崇之 (ハヤセ株式会社 代表取締役)	小林 充子 (同窓会副会長)
廣山 知史 (Google for Education 営業企画本部 部長)	尾高 弘之 (PTA会長)

(2) 学校関係者評価について

学校運営協議会における学校関係者評価として、委員から指摘いただいた主な点は、次の通りである。

- ①今年の中学校での説明会での林野高校の説明が良かったと聞いた。何か工夫した点があるのか。→(学校) 昨年は会場によっては音割れが激しく聞き取りにくい状況があったため、本年度はどんな環境でも伝わるようにインタビュー中に字幕を入れるなど、視覚的に分かりやすいように工夫した。
- ②昨年度、勝田中学校で高校生が中学生にChromebook使用法を教えるという機会があったが、Chromebookを生かした高校生と中学生との連携ができるよう検討して欲しい。
- ③地域課題に取り組んでいる小中学校の取り組みに対して、みまさか学を学んでいる高校生がフィードバックをするなどの連携も考えられるのではないか。
- ④同窓会から寄付を募り、ホームページをリニューアルする費用として協力した。ホームページをしっかりと見てもらえるよう中学生に宣伝してもらいたい。
- ⑤“私は授業を持ち歩く”というキャッチフレーズはとても良いので、どんどん使用していたほうが良い。
- ⑥広報のチラシはドラマの一場面のように学校生活の楽しさを感じて、とても良い。
- ⑦Chromebookが全国的に使用されるようになって、林野高校の差別化を図るために例えば生徒に林野高校のことを漫画で書かせてみてはどうか。
- ⑧子供の中学校で学校説明会に2年続けて参加した。昨年度に比べて聞きやすく、林野高校に行かせたいという気持ちになった。
- ⑨オープンスクールの保護者アンケートに「入学金・支援制度の話を知りたかった」とある。意見を来年度のオープンスクールに生かして欲しい。
- ⑩オープンスクールのアンケートで一番の魅力にChromebookをあげている。ただ使用しているだけでこの結果は出ないので、林野高校は効果的に見える活用・想像を超える使用をしていることが分かる。ICT活用で林野の弱点を補強することが出来れば良い。

3 来年度の重点目標(案)について

学校評価書等をふまえて、来年度の重点目標(案)は次のとおりである。

- 日本ICT教育トップランナー校として、さまざまな場面で生徒の自己実現のためにICTを利活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- 資質・能力の育成を基盤とした授業改善を進め、個別最適な指導を行う。
- 生徒自身が主体的、計画的に取り組む活動等を展開する。
- 生徒自身が社会との関わりの中で、自らの生き方を考え進路を実現することができるように指導する。
- 「開かれた学校」の観点から、小中学校・地域との連携や姉妹校との国際交流などを通じて生徒の豊かな人間性を育成する。
- 組織的で効率的な学校経営や個人の意識改革を進め、負担軽減を図る。